

永続的なグリーン科学園区

永続的なグリーン科学園区を目指して

南科では2009年5月に「永続的なグリーン科学園区推進チーム」を立ち上げて積極的に省エネ・CO₂削減を進め、永続的なグリーン科学園区の建設を目指しています。2010年は以下の4分野を中心に取り組みが行われました。南科は環境報告書をまとめた全国初で唯一の科学園区であり、ダイヤモンド級グリーン建築認定を受けた建築物の密度が最も高く、再生可能エネルギー(太陽光発電システム)の設置申請数が最も多い科学園区となっています。

一、グリーン産業

川上、川中から川下まで計17社の太陽電池、LED産業等のクリーンエネルギー企業が進出しているほか、核エネルギー研究所の高集光太陽光発電高科検査と発展センター及び電信技術センターの太陽光電モジュール検査実験室、金属工業研究開発センターなど関連機関も誘致しました。

二、グリーン交通

台南園区では2010年1月28日から無料の巡回バスが運行を開始し、最初はおもに南科実中の生徒と宿舍住みの従業員に利用されていましたが、2010年7月14日に台湾鉄道南科駅がオープンしてからはバス、鉄道など公共交通機関の接続もスムーズになり、今では企業、四大商業エリア、公営駐車場を効率良く結んでくれる園区の「足」として重宝されています。バスは毎日89便運行され、累計利用者数は2010年12月末時点ですでに10万人近くに達しています。この累計10万人のバス利用により、210トンのCO₂排出を削減することができました。また、自転車専用道の整備も進めています。

三、グリーン建築

園区にはダイヤモンド級「グリーン建築」は2010年までに南科実中高校部校舎を入れて3つあり、グリーン建築の認定を受けた建築物の密度では全国一の科学園区となっています。

グリーン建築や節水・省エネの推進、台南園区のダイヤモンド級EEWH-EC(生態コミュニティ)認定取得に向けた取り組みのほか、緑化のため新たに7200本の植樹が行われ、伝統的な街路灯をLEDに切り替えることを進めました(六本の道路で約300台)。

四、グリーン生産

台南園区環工センターと資源再生センターがカーボンフットプリント認証を取得、高雄園区汚水処理センター検査室が全国認証基金会TMAH認証を取得し、園区の環境報告書は「2010台湾企業永続報告奨」を受賞しました。また、入居企業に対する温室効果ガス診断・算定、グリーン工場認証取得サポートや生産現場における整理整頓の指導なども行っています。



▼ダイヤモンド級「グリーン建築」認定を取得した南科実中校舎



▼台湾鉄道南科駅オープニングセレモニーのテープカット来賓との記念撮影(2010.7.14)